

令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) **国補** ・ 県単

1. 事業説明シート

事業名	農地防災事業 [防災重点農業用ため池緊急整備事業(国補)]		事業箇所	大月市猿橋町小篠	地区名	小篠	事業主体	山梨県
計画期間	当初計画	現計画	④特記事項(関連事業概要等) なし					
	R2~R5	R2~R8	変更計画	R2~R10	⑤これまでの評価状況 なし			
総事業費	440 百万円	893 百万円	998 百万円	(1) 事業の概要				
①事業目的及び効果								
<p>小篠ため池は大月市南東部に位置し、本地域の農業用水を確保するための重要な農業用施設である。</p> <p>本ため池は築造から90年以上が経過しており、機能診断の結果、大規模地震・豪雨耐性において基準を満たしていないことが判明した。</p> <p>ため池の下流域には人家等があり、大規模な地震または豪雨により決壊した場合、甚大な被害を及ぼすため、早期に防災工事を実施し、住環境の安全、農業生産の維持及び農業経営の安定化を図るものである。</p>								
<p>□主要目標 ○洪水被害危険度の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池決壊の構造的危険度 84点≧67点 ※ ・ため池決壊に伴う下流域への影響度 26点≧9点 ※ <p>(※評価基準値)</p>								
□副次目標 ○農業用排水能力の向上								
□副次効果 ○農地の保全 ○既存施設の崩壊危険性の排除 ○遊休農地の解消								
②事業概要								
堤体工 一式、 洪水吐工 一式								
③全体計画								
		令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降				
現計画	工事内容	測量設計 一式 堤体工 一式 洪水吐工 一式	堤体工 一式 洪水吐工 一式	洪水吐工 一式				
	事業費	792 百万円	43 百万円	58 百万円				
変更計画	工事内容	測量設計 一式 堤体工 一式 洪水吐工 一式	洪水吐工 一式	洪水吐工 一式				
	事業費	792 百万円	43 百万円	163 百万円				

地理院地図(国土地理院)を加工して作成

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

受益農地における生産維持及び集落における住民生活の安全性確保のため、管理者である土地改良区を始め地元農家や住民からの早期完成要望が強い。

②産業・経済情勢

労務費・建設資材費の上昇

③国等の方針

令和2年10月に施行された「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法（以下、「特別措置法」という。）」や、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策及び国土強靱化実施中期計画において、ため池の防災・減災対策を集中的に実施することとされており、特別措置法に基づく国の基本方針においても、「適切に地震・豪雨耐性評価を実施し、必要な対策を速やかに実施すること」とされている。

④上位計画・関連事業計画等

やまなし農業基本計画（令和6年1月策定）

⑤自然環境条件等

変化なし

⑥その他

変化なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点	再評価時点	変更計画時点
総事業費		440 百万円	781 百万円	998 百万円
工期		R2~R5	R2~R8	R2~R9
評価基準年		R1	R3	R7
経済 効率 率 性	費用	429 百万円	748 百万円	1,456 百万円
	建設費	368 百万円	693 百万円	1,329 百万円
	その他(資産価額、再整備費)	61 百万円	55 百万円	127 百万円
	便益	805 百万円	805 百万円	1,534 百万円
	災害防止効果	806 百万円	806 百万円	1,535 百万円
	維持管理費節減効果	△ 1 百万円	△ 1 百万円	△ 1 百万円
		百万円	百万円	百万円
B/C		1.9	1.1	1.1

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

（3）これまでの計画変更等の概要

- 洪水吐工内の減勢工、流路工において、想定よりも地形が急峻であり、減勢が可能となる平場を確保するため減勢工位置を下流側に変更した事により、流路工の延長が増となった。また、減勢工位置の変更に伴い勾配の見直しを行った結果、断面積が大きくなった。また、ボーリング調査の結果、当初の想定より池底が低いことが判明し、新たに安定計算及び詳細設計を行ったところ、ため池堤体を安定させるための押え盛土量が増え、事業費の増となった。

- 上記変更に伴い、事業工期を令和8年度までとした。

- 物価高騰や労務単価の上昇を要因とする事業費の増

	当初	→	現計画
総事業費	440百万円		893百万円
計画期間	3年延長		

評価シート(2)

<p>(4) 事業進捗状況及び見込み</p> <p>①進捗率 別表のとおり。 R7年度進捗率(現計画)93.5%→(実績)93.5%→(変更計画)81.6%</p> <p>②進捗率実績が計画と相違している理由 計画どおり進捗</p> <p>③総事業費の変更内容</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">変更工種等</th> <th style="width:25%;">事業費増減</th> <th style="width:10%;"></th> <th style="width:50%;">変更理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堤体工の内、土質改良工</td> <td style="text-align: center;">130百万円</td> <td style="text-align: center;">増</td> <td>堤体改修のために堆積土を掘削したところ、堆積土がヘドロ化しており、掘削が困難であったため、土質改良工が必要になった事による事業費の増</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">130百万円</td> <td style="text-align: center;">増</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>④事業期間の変更理由及び進捗予定 ため池内堆積土の土質改良工の増工に伴い工期を2年間延長する。 その他の工種についても計画的かつ効率的な実施に努め、令和10年度の完了を目指す。</p> <p>⑤今後の事業執行における留意点 なし</p>	変更工種等	事業費増減		変更理由	堤体工の内、土質改良工	130百万円	増	堤体改修のために堆積土を掘削したところ、堆積土がヘドロ化しており、掘削が困難であったため、土質改良工が必要になった事による事業費の増	合計	130百万円	増		<p>(5) 環境負荷等への配慮</p> <p style="text-align: center;">なし</p> <hr/> <p>(6) コスト縮減の可能性</p> <p style="text-align: center;">なし</p> <hr/> <p>(7) 代替案立案の可能性</p> <p style="text-align: center;">なし</p> <hr/> <p>(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他()</p> <p>(理由)</p> <p style="text-align: justify;">安定的に農業用水を確保し、農業生産の維持、農業経営の安定及び地域住民の暮らしの安全確保を図るために必要不可欠なため池であることから、事業を継続し、令和10年度の完了を予定している。</p>
変更工種等	事業費増減		変更理由										
堤体工の内、土質改良工	130百万円	増	堤体改修のために堆積土を掘削したところ、堆積土がヘドロ化しており、掘削が困難であったため、土質改良工が必要になった事による事業費の増										
合計	130百万円	増											

○別表-進捗率(事業費ベース)

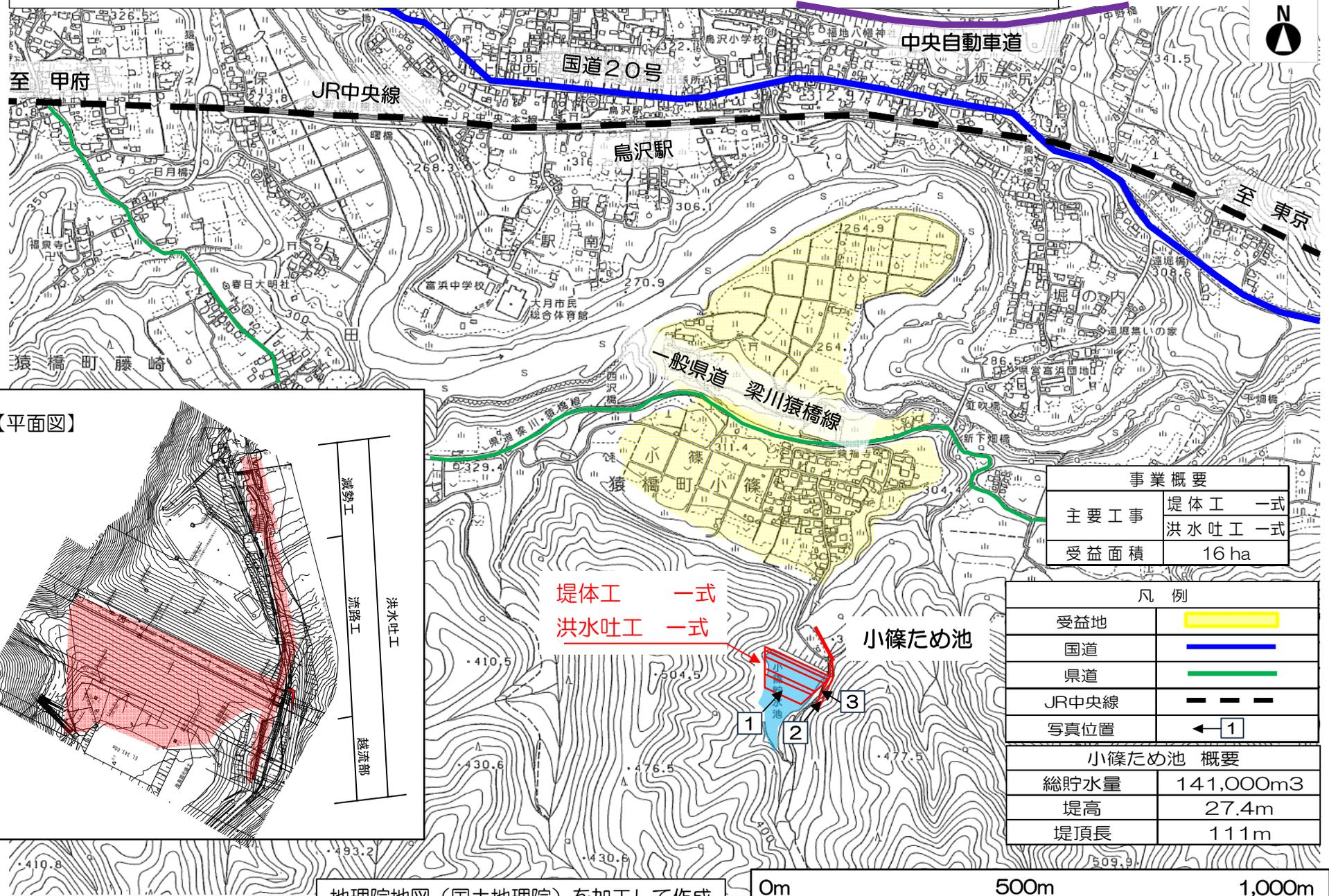
算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位：%

		年度	*R2	*R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
現	計画		39.4	46.8	70.2	78.8	88.7	93.5	100		
	実績		39.4	46.8	70.2	78.8	88.7	93.5			
	変更計画							82.9	91.5	99.5	100

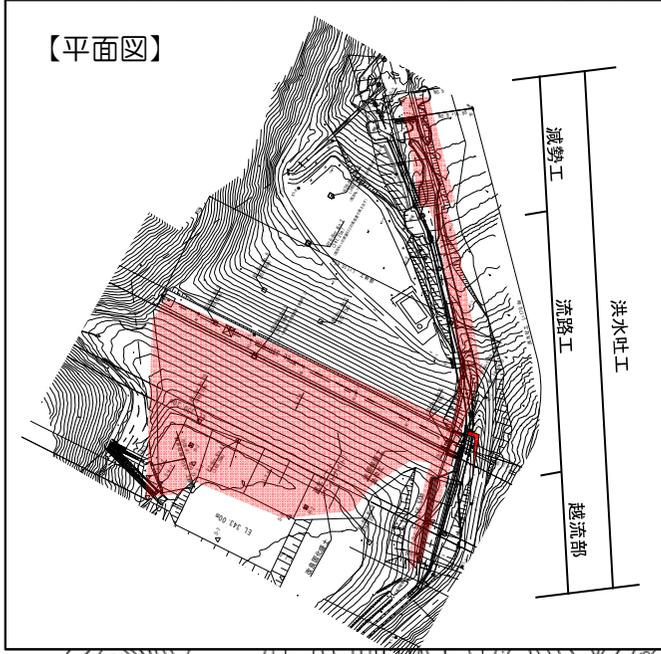
*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

防災重点農業用ため池緊急整備事業 小篠地区 一般計画平面図



【平面図】



堤体工 一式
洪水吐工 一式

事業概要	
主要工事	堤体工 一式 洪水吐工 一式
受益面積	16 ha

凡例	
受益地	
国道	
県道	
JR中央線	
写真位置	

小篠ため池 概要	
総貯水量	141,000m ³
堤高	27.4m
堤頂長	111m

地理院地図（国土地理院）を加工して作成

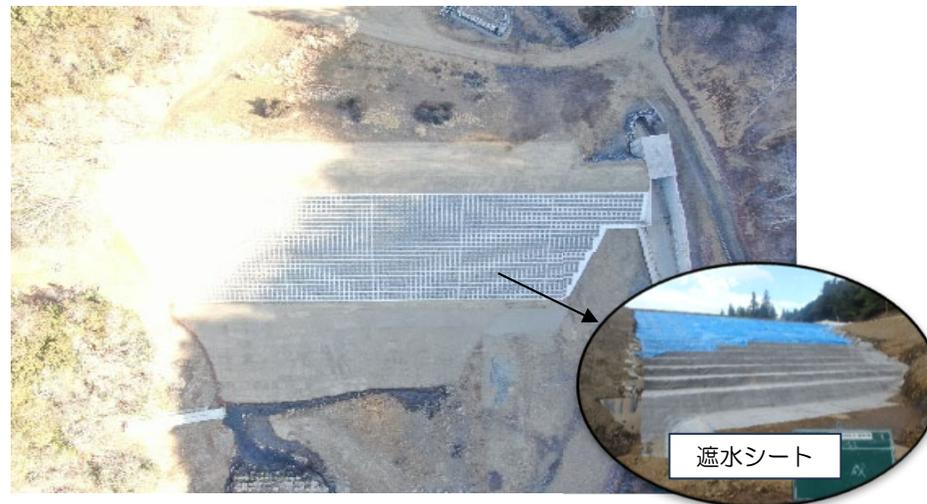
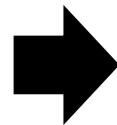


3.添付資料シート(2)

1 堤体工



耐震性能を満たしておらず、遮水シートの劣化により漏水も発生していた。

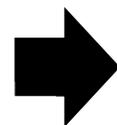


大規模な地震に耐えられる堤体に改修し、新しく遮水シートを堤体内に設置したことで安全性が向上した。

2 洪水吐工



豪雨時に下流へ水を流す断面が不足しており、また、老朽化による陥没も発生していた。



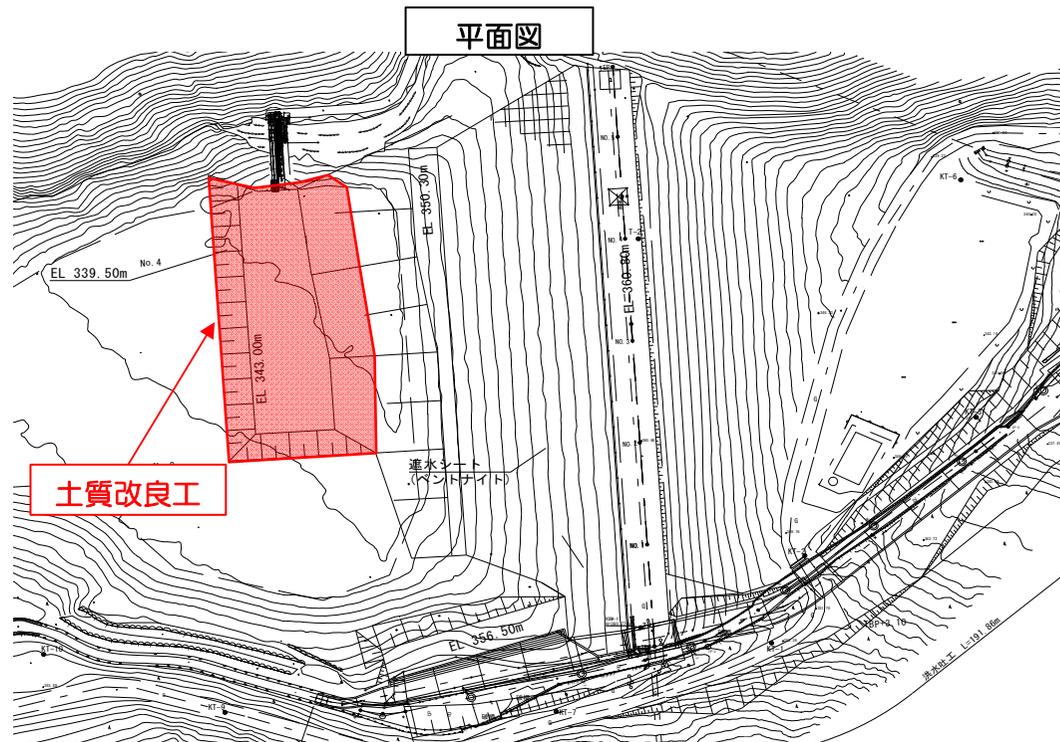
断面を大きく改修したことで、豪雨時でも安全に下流へ水を流すことができるようになった。

3.添付資料シート(3)

事業費増額説明資料

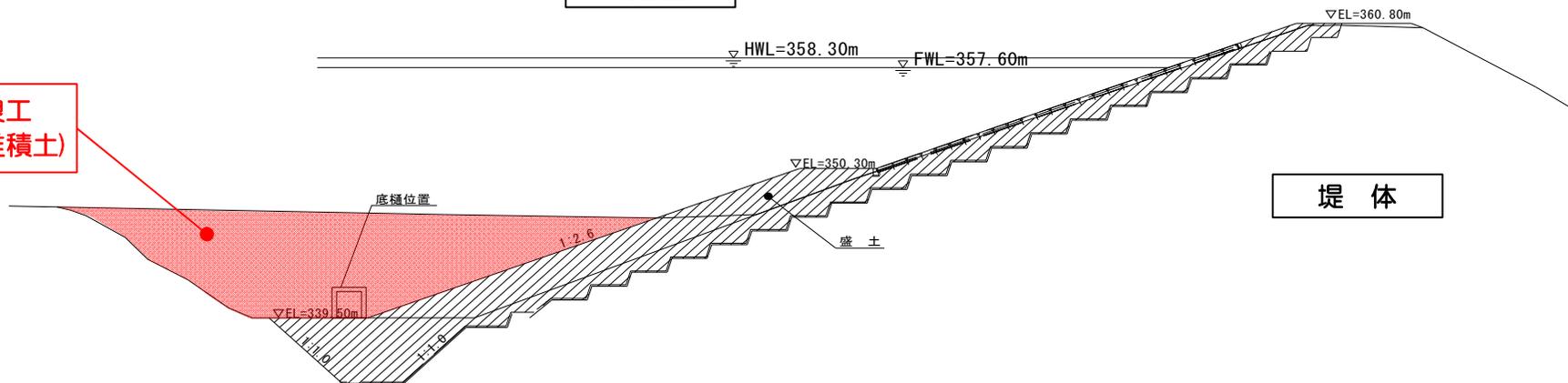
【土質改良工】

写真③



断面図

土質改良工
(掘削する堆積土)



堆積土を掘削したところ、堆積土がヘドロ化しており、掘削困難であったため、土質改良工を追加したことによる事業費の増。

